

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	17	学校名	静岡県立裾野高等学校	校長名	多嶋 洋一
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	社会に適應できる基本的な生活習慣の確立に向けた指導を充実する。	裾野高校に入学してよかったと答える生徒75%以上【全員】	よかったと答えた生徒は89%（昨年85%）	A	成果目標の中で、一番重要な項目である。学校の教育活動全体を通じて、数字を上げる。
		服装が良いと答える生徒90%以上【生徒課他】	良いと答えた生徒は90%（昨年91%）	A	チケット指導を活用し、引き続き指導していきたい。
		挨拶ができると答える生徒90%以上【生徒課他】	できると答えた生徒は88%（昨年79%）	B	教員側からも挨拶を働きかけ、生徒の有用感につなげていきたい。
		出席率98.0%以上 遅刻・早退件数 前年度比30%減 【教務・研修課他】	出席率98.3%（昨年97.9%） 遅刻・早退の前年42%減・32%増（昨年45%・29%減）	A	遅刻・早退の多い生徒へ早めの対応をしていきたい。
		基本的な生活習慣の指導を適切に行っていると答える生徒80%以上【生徒課他】	適切に行っていると答えた生徒は86%（昨年80%）	A	学校生活全体を通して、基本的な生活習慣の重要性を伝え、改善につなげていきたい。
		委員会活動が活発であると答える生徒70%以上【生徒課他】	委員会活動が活発であると答える生徒68%（昨年—%）	B	活発だと感じられる委員会に偏りが見られる。
イ	望ましい社会性、規範意識を育成し、生徒の自立性・社会性を伸ばし、命を尊び健康で安全な生活を送らせる。	全校集会、学年集会で毎回、生徒に問題行動予防のための講話を実施。問題行動の発生件数前年度比20%減【生徒課他】	集会時の講話は随時実施。 問題行動の発生件数前年度比4.5%増【22件→23件】 （昨年38%増）	C	集会だけではなく、学校生活や授業の中で、生徒たちに呼びかけ、問題行動の予防に努めたい。 生徒が持っている力を良い形で発揮できるように働きかけをしていきたい。
		PTA・地域との連携による交通安全指導を実施し、交通事故件数を前年度比20%減 外部講師の交通安全教室を年2回実施 教育相談委員会の実施を年間6回以上 健康・安全に関する指導を行っている と答える生徒85%以上	交通事故件数1件（昨年8件） 前年比87.5%減（昨年60%増） 交通安全教室年2回実施 教育相談委員会2回実施 指導を行っている と答えた生徒	A	外部講師による交通安全教室は年2回実施した。 命の大切さについても講話等で触れていきたい。 教育相談委員会を2回、ケース会議は10回実施した。

		【生徒課、保健・相談課】	は 90% (昨年 82%)		
		避難訓練を年 3 回実施。 地域防災訓練参加率 75%以上【総務・図書課】	年 3 回実施できた。 参加率 4% (昨年 5%)	C	今年度も実施しない地区が多かった。
		保健便りを年 10 回は発行 疾病治療率 60%以上 特に、歯科受診率 30%以上 朝食摂取率 95% 【保健・相談課】	保健便り年 10 回発行 疾病治療率 58.4% (昨年 50.3%) 歯科受診率 20% (昨年 9.3%) 朝食摂取率 87.4% (昨年 85.9%)	B	保健便りは予定通り発行できた。 朝食調査は令和元年度に実施して効果があった調査方法で実施した。今年度は摂取率の上昇が見られた。
		教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれると答える生徒 75%以上 生徒面談年 3 回以上 生活アンケートを年 3 回実施 定例いじめ対策委員会を年 3 回開催 【保健・相談課他】	親身になって聞いてくれると答えた生徒は 89% (昨年 80%) 生徒面談年 3 回 生活アンケート年 3 回実施 いじめ対策委員会年 3 回実施	A	教育相談委員会・いじめ対策委員会開催と生活アンケートを実施し、よりスムーズな情報収集と対応ができるようにしたい。
		清掃により校内美化が保たれていると答える生徒 80%以上 【保健・相談課】	保たれていると答えた生徒は 81% (昨年 83%)	A	教員の指導力向上が課題である。
ウ	総合学科の特色を生かして、地域人材の活用を図り、基礎基本の定着や課題解決能力を図る。	各系列の課題探究・課題研究について研修を実施 教務・研修課の研修機能を整備 【教務・研修課】	課題探究・課題探究について研修を実施 計画的な職員研修の実施	A	校内の学習環境整備を中心に研修機能の強化を図った。 職員研修は大学教授を招請した研修も 1 回行うことができた。
		家庭学習をよくやっていると答える生徒 25%以上【教務・研修課】 基礎力診断テストにより基礎学力の定着度が把握できたと答える生徒 70%以上 授業で力がついたという生徒 25%以上 【進路課】	よくやっていると答えた生徒 38% (昨年 30%) 基礎力診断テストによる定着が把握できたと答えた生徒 78% 授業で力がついたと答えた生徒 87%	A	毎日の授業課題により、家庭学習の習慣がつくようになってきた。 基礎力診断テストにより自己の学力の定着度の把握や授業で力がついたと実感する生徒が増えているが、就職試験で学力試験を課す企業が増えており、基礎学力の定着が一層必要になっている。

		授業がわかると答える生徒 70%以上 【教務・研修課】	わかりやすいと答えた生徒は 86%(昨年 78%)	A	教員の授業改善を推進し、割合が更に上がるようにしていく。
		家庭学習時間調査を定期的に実施し、平日が 40 分以上、休日が 60 分以上と答える生徒が 80%以上 【教務・研修課】	平均平日 26 分、休日 33 分であるが、目標の時間以上学習している生徒は 14%に留まっている。(昨年:平均平日 48 分、休日 56 分)	C	学習時間ゼロの生徒が減少するように授業課題の充実を図る。
		朝読書がよいと答える生徒 70%以上 生徒の借りる本一人 3 冊以上【総務・図書課他】	よいと答えた生徒は 70%(昨年 60%) 一人 1.8 冊 (昨年 1.4 冊)	B	図書館を利用する生徒が年々減ってきており、書籍を借りる生徒が特定の生徒になっている。来年度も図書館利用の啓蒙を強く行っていく。
		系列や選択科目が進路に応じていると答える生徒 80%以上 オープンスクールにおける来校者の満足度 90%以上 地域人材の活用 50 件以上 地域関連事業を年 30 件以上 【総合学科他】	進路に応じていると答えた生徒は 91%(昨年 88%) オープンスクール満足度 97.6% 地域人材の活用 116 件 地域関連事業 14 件	A	人材活用(福祉介護系列 17 件、保育健康系列 45 件、ビジネス系列 42 件、キャリア関連 9 件、進路課 1 件、その他 2 件) 地域関連事業(ビジネス系 5 件、ボランティア部 2 件、野球部 1 件、生徒会 1 件、総合学科 1 件、その他 4 件) 地域関連事業はコロナ禍で実施できない事業が多かったが、感染防止対策を取ったうえで、地域の方に来校していただく人材活用事業を増やした。 今後も学校経営予算を有効に使い、地域の人材活用を積極的に図っていく。
エ	キャリア教育を推進し、地域貢献のできる人材育成を図る	3 年生就職者の第一志望合格率 90%以上 3 年生進学者の第一志望合格率 90%以上 3 月末までの進路決定 100% 進路決定に向けた指導が充実していると答えている生徒 90%以上【進路課他】	就職者 88% (昨年 90%) 進学者 88% (昨年 97%) 進路決定率 97.2% (昨年 100%) 充実していると答えている生徒 87% (昨年 76%)	B	就職・進学とも目標値にわずかに届かなかったがほぼ達成することができた。 次年度も早期指導を徹底し、卒業までに進路決定できるようにしていきたい。
		「産業社会と人間」・総合的な学習の時間が自己のためになったと答える生徒 80%以上 【総合学科他】	自己のためになったと答える生徒は 79%(昨年 76%)	B	1 年次のキャリアベーシック、2 年次のキャリアチャレンジ、3 年次のキャリアアップと 3 年間で系列的・体系的なキャリア教育を実施する。

様式第3号

		<p>インターンシップ参加者2年生(就職希望者)100%</p> <p>オープンキャンパス参加者(進学者)100%</p> <p>志望学部・志望学科・志望職種が明確になったと答える2年生90%以上</p> <p>自己の進路目標に即して系列を選ぶことができたと答える1年生が90%以上</p> <p>【進路課他】</p>	<p>参加率4.2%(昨年0%)</p> <p>オープンキャンパス参加率33%(昨年1%)</p> <p>進路が明確になったと答えた2年生87%。</p> <p>自己の進路目標に即して系列を選ぶことができた1年生89%</p>	B	<p>インターンシップは実施したが、今年度もコロナ禍により参加者は少なかった。</p> <p>オープンキャンパスも参加しにくい状況があったが、自分の進路に向けて意欲的に行動できた意識の高い生徒もいた。</p>
		<p>平日、休業中の補習参加者各学年40人以上【進路課他】</p>	<p>1年 0名</p> <p>2年 23名</p> <p>3年 30名</p>	C	<p>3年生の進路意識は全体的に高く、目標に向けてよく努力していた。</p> <p>1・2年生については来年度の課題としたい。</p>
オ	<p>学校行事、特別活動、部活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせ、学校の活性化を図る。</p>	<p>生徒会活動は成功につながっていると答える生徒70%以上</p> <p>【生徒課】</p>	<p>成功につながっていると答えた生徒は89%(昨年83%)</p>	A	<p>生徒会から出る自発的な意見を大切に、活発化につなげたい。</p>
		<p>学校行事は充実していると答える生徒80%以上</p> <p>HR活動を通してクラスのまとまりがあると答える生徒70%以上【生徒課他】</p>	<p>充実していると答えた生徒は92%(昨年78%)</p> <p>まとまりがあると答えた生徒は90%(昨年70%)</p>	A	<p>今年度は五龍祭を校内発表のみで実施できた。次年度も五龍祭を中心に、生徒が活躍できる環境を心掛け、満足度を上げていきたい。</p>
		<p>所属している部活動に満足していると答える生徒70%以上</p> <p>【生徒課】</p>	<p>満足していると答えた生徒は84%(昨年75%)</p>	A	<p>生徒数減少を踏まえ、部活動の統廃合を進めながら、さらなる活発化を図っていきたい。</p>
カ	<p>保護者や地域住民等への広報活動を充実し、地域貢献活動を活発に実施する。</p>	<p>HPを活用して毎週1回以上の情報発信して月のアクセス数を2500以上とする</p> <p>HPやFacebookで学校の様子を知ることができるかと答える保護者80%以上</p> <p>各学年部は学期に3回以上保護者に対して学校の様子がわかる広報紙を発行</p> <p>報道提供件数50件以上【情報委員会他】</p>	<p>HP情報発信＝週1回程度(昨年週2回)</p> <p>月のアクセス2492件(昨年2688件)</p> <p>様子を知ることができたと答えた保護者は78%(昨年81%)</p> <p>学年広報誌(年)</p> <p>1年2回</p> <p>2年1回</p> <p>3年1回</p> <p>報道提供9件</p>	C	<p>HPの発信はコロナ禍で行事が減り、発信回数が減ってしまった。次年度は、情報委員会の担当者を中心により多くの情報発信ができるように機能させたい。</p> <p>学年広報誌については、学年によってばらつきがある。学校と家庭をつなぐ手段の一つとして定着させたい。</p> <p>報道提供件数は、コロナ禍で広報できる内容の行事が減ったことにより伸びなかった。</p>

様式第 3 号

		学校広報チラシを月に 1 回発行 【総合学科】	月 1 回発行 (昨年 1 回)		月 1 回のペースで定期的に発行することができた。
		PTA 総会出席率 30% 以上 PTA 活動が理解されていると答える保護者 60%以上【総務課】	総会出席率 28.3 % (昨年 94% (書面)) 理解されていると答えた保護者は 60 % (昨年 56%)	B	PTA 総会は目標に届かなかった。次年度は土曜日開催とし参加者増を期待している。 PTA 活動の理解度については、広報も含め、PTA と連携しながら数字アップを図る。
		清掃活動以外の一部活動一ボランティア活動の実施 100% 【生徒課】	実施率 100%	—	今年度もコロナ禍のため活動を自粛した。
キ	職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。	海外修学旅行に向けての事前研修、現地での取組計画、事後研修の立案 地球的規模の課題について興味を持ったと答える生徒 50% 英語検定合格者数 3 級 30 人以上 準 2 級 15 人以上 漢字検定合格者数 2 級 5 人以上、準 2 級 20 人以上 数学検定合格者数 準 2 級 10 人以上 商業検定合格者数 全商検定 (簿記・情報・電卓) 1 級 30 人以上【1・2 年部、総合学科、教科】	海外修学旅行から国内 (広島・神戸・大阪) に変更になった。 地球的規模の課題について興味を持ったと答えた生徒 56% 英検 : 3 級 12 人、準 2 級 5 人、2 級 0 人 漢検 : 準 2 級 2 人、2 級 1 人 数検 : 準 2 級 3 人 商業検定 全商 1 級 37 人	C	2 年の総合的な学習の時間 (キャリアチャレンジ) の中で「台湾学」を行う予定だったが、行先変更により「山陽学」を実施した。急な変更であったが充実した研修ができた。また、その成果を生徒に発表させる機会を設けることができた。 検定合格者の人数は目標まで届かなかった。
ク	教職員は研修に積極的に参加し、組織的な取組により学校力の向上に貢献する。	授業参観後の合評会や生徒による授業評価アンケートを非常勤講師まで含んで 100%実施 【教務・研修課】	生徒授業評価アンケート 92%実施	B	アンケートはほぼ実施できた。結果を授業に反映させるようにしたい。
		「主体的・対話的で深い学び」及び「ユニバーサルデザイン」を意識してやっている教員の割合が 80%以上 【教務・研修課】	意識してやっている教員 97%	A	授業改善につながる研修を引き続き実施し、満足度、導入率が更に上昇するようにしたい。

		<p>必要な生徒に対して個別支援計画立を作成 UD教育を取り入れる教員 90%以上 【保健・相談課】</p>	<p>個別支援が必要な生徒1名に、支援計画を作成 UD教育を取り入れる教員 97%</p>	A	<p>個別指導・支援計画は、中学校からの引き継ぎを含め、必要な生徒には作成する。</p>
		<p>教務・研修課、生徒課の連携により、採用1～3年目の教員のための生徒指導に関する研修を導入 【教務・研修課、生徒課】</p>	<p>若手教職員を中心としたグループ研修を実施した。</p>	A	<p>6年次研修の教職員を中心としたグループ研修において、若手教員の交流及び情報共有の場を設定した。</p>
		<p>教職員が連携し、カリキュラム・マネジメントを意識した教育活動を実践し、教育効果が上がったと実感する教員 80% 【管理職】</p>	<p>カリキュラム・マネジメントを意識した教育活動を実践し、教育効果が上がったと実感した教員 61%</p>	C	<p>成年年齢引き下げに係る教科横断的な取組について、職員室内にボードを設置して、意見の集約を行い、裾高版教科横断MAPを作成した。 今後も日ごろの教育活動の中で意識を高めていきたい。</p>
ケ	<p>教職員は効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。</p>	<p>定例会議の実施及び計画的・組織的な取組を実施する。 【全員】</p>	<p>キャリア教育の時間の打合せを中心に、計画的・組織的な会議が概ね実施できた。</p>	A	<p>総合学科の特徴として、教員の空き時間を、共通に設定することが難しいが、短時間でも会議を開くことで、職員間の共通認識を図ることができた。</p>
		<p>月末月曜日の定時退勤励行（午後6時完全退勤） 午後8時退勤励行（午後9時完全退勤） 夏季休暇完全取得 一人当たり時間外勤務月平均 30 時間以下 一人当たりの年休取得日数平均 13 日以上 【管理職、事務部】</p>	<p>定時退勤日における教員の実施状況は向上した。 午後9時完全退勤はほぼ実施できた。 夏季休暇取得率 95.7%（昨年 96.9%） 時間外勤務の月平均 28.1 時間 一人当たりの年休取得日数 12 日</p>	B	<p>今後も教員の働き方に対する意識向上や業務削減を図ることで、教員の勤務時間短縮に努める。</p>

様式第3号

<p>コ</p>	<p>安心安全な教育環境の整備、充実に努める。</p>	<p>体罰、セクハラ等 職務事故0件 施設設備に起因する事故 件数0件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数0件 学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒70%以上 警報時の対応について承知していると答えている生徒や保護者80%以上 【管理職、事務、保健・相談課】</p>	<p>体罰等0件 施設設備に起因する事故0件 監査での指摘、文書指導等0件 整備されていると答えた生徒は82% 承知していると答えた生徒90%、保護者84%だった。</p>	<p>A</p> <p>不祥事根絶計画を確実に実施し、管理職からも定期的に呼びかけることで、体罰等の不祥事を未然に防ぐ。</p> <p>施設設備については、日頃の点検や教員と事務員の連携を通じて、確実な整備に努める。今後もメールやHPを通じて、警報時の対応を生徒や保護者に周知徹底する。</p>
----------	-----------------------------	--	--	---